

独立混成第十七旅團司令部略歴

年月日	概要
昭一四、一月四日	1、軍令陸甲第四十号に依り独立混成第十七旅團司令部編成下令 2、昭一四、一月四日 編成業務着手
自一五、一月五日至一七、三月七日	3、昭一四、一二、一五 江蘇省上海に於て編成完結 旅團長陸軍少將長谷川正憲以下等校二十二名 准士官二名 下士官三十名 兵八十六名 通訳五名 計百五十一名 江南作戦に参加
一六、一二、二月八日	4、旅團長 陸軍少將炳山秀吉
一六、三月三日	1、炳山少將は急迫せる租界対策の為め至急赴任すべき電命を受け十二月二日大原飛行場に依り北京清前徐州至由上海に向う途中一二月三日十四時五分徐州飛行場離陸の直後発動機の故障により徐州市外に於て殉職す 2、旅團長陸軍少將田上八郎 3、大東亞戰爭勃發 4、上海共同租界に進駐す
自一七、三月七日至一七、三月七日	5、大陸周辺作戦に参加
一七、三月七日	6、陸支機器方 号により独立混成第十七旅團司令部編成改正、兵器勤務班名

(K9)

8849

0062

年 月 日	概 要
	増加せらる
自昭一七、五、二 至昭一七、九三〇	1、昭一七、三 編成改正業務着手 2、昭一七、四、五 江蘇省上海に於て編成改正完結 3、兵器勤務班長 陸軍少尉 武井右一郎 下士官十名、兵三十名
一七、八、二 八、六	4、從未の司令部自動車手四十一名を兵器勤務班に編入す
八、一	5、浙贛作戦に參加
八、一	6、戰死 下士官 一
一七、八、三	7、中華民國湖南省岳陽縣岳州移駐
自一八、四、五 至一八、六、五 一、一、元	8、補充人員 淮士官一名、下工官五名、兵五十五名 岳陽縣岳州に到着す
一、一	9、交代精選人員 下士官二名、兵二十四名、岳陽縣岳州を出発内地に帰還す
八	10、旅團長 陸軍少將 高 岳 彪
八	11、江南戡定作戦參加
一、一、元	12、中華民國湖北省咸寧縣咸寧移駐
一、一、元	13、旅團長 陸軍少將 岸川 健一

(50)

0063

三、六	一、補充人員 矢枝矢十七名咸寧縣咸寧に到着す
一九、四、五	二、中華民國湖南省岳陽岳州移駐 湖南作戰參加
二〇、三、九	一、旅團長 陸軍少將 谷 天
八、西	一、停戰協定締結
八、八	一、軍令陸甲才一一大男により復員下令
九、二	
貳、三	一、旅團司令却を接收せられ武装を解除す
貳、三	中華民國湖南省岳陽縣雲溪移駐
二一、四、二二	一、復員準備のため岳州至由漢口に向い岳陽縣雲溪を出発す
七、一	一、上海港出發
七、九	一、浦賀港上陸

(57)

0064

独立混成第十七旅團司令部先遣隊略歴

年月日	概要
昭、一四、二、三六	昭和十四年軍令陸甲第十四署に依り独立混成第十七旅團司令部編成下令
一、昭、一四、一、二、二六	編成業務着手
二、昭、一四、一、二、一五	中華民国江蘇省
三、第一代旅團長 陸軍少將 長谷川 正憲	上冊に於て編成完結
一、昭和十五年度 上海附近第一期	
一、五、二、元	治 安 菲 正
一、五、三、一	
一、五、六、三〇	治 安 薦 正
一、五、七、一	
一、五、一、三〇	治 安 薦 正
一、五、一、三〇	昭和十五年度 上海附近第二期
一、五、一、三〇	治 安 薦 正
自一五、二、一 至一六、三、三	江南追放作戦に参加（自昭、一五、一、三、至昭、一五、一、〇、三〇）
昭和十六年農才一期 上海附近治安肅正	蘇北作戦參加（自、昭、一六、二、二一至、一六、三、五）

(52)

0065

自昭一六、四、一 至昭一六、八、三	オ二期上海附近の治安肅正
自昭一六、九、一 至昭一六、二、一	オ三期上海附近の治安肅正 ノ 大東亜戦争上海植界進駐作戦參加
自昭一七、六、一 至昭一七、三、三	オ二代旅団長 陸軍少将 楠山秀吉 オ三代旅団長 陸軍少将 楠山秀吉 楠山少将 昭和一六年 月 日着任金次 飛行機事故の為不慮死す 同日田上少将着任す
自昭一七、六、五 至昭一七、六、三	上海附近の警備 ノ 太湖周辺作戦（自昭一七、二、二九、至昭一七、三、二九） オ十九号作戦
第一次岳州長安附近の警備	信陽方面陽道作戦 浙贛作戦

(53)

0066

年 月 日	概 要
昭和一七、一一、二〇 至昭一七、二、三三	新橋河連攻作戦參加
昭和一八、二、一 至昭一八、三、三三	江北城滅作戦參加
昭和一八、四、二大 至昭一八、六、三〇	江南城滅作戦參加
昭和一八、七、五 至昭一九、三、三〇	才四代旅團長陸軍中將高島 成寧城滅作戦 常徳城滅作戦 作戦參加
昭和一九、七、一 至昭一九、三、三〇	成寧城附近の警備 高島 施看任す
昭和一九、一六、三 至昭一九、八、一五	才五代旅團長陸軍少將岸川建 一着任す 才ニ次岳州長安附近の警備 湘桂進攻作戦に参加
昭和一九、四、一 至昭一九、八、一五 二〇、三、九 八、四	後方補給業務 交通路確保 才大代旅團長陸軍少將谷美夫看任す 作戦詔書発布

(54)

0067

八五	九二	復員下令 停戦協議結果
七六	七七	湖南省臨晉県幾溪に集中
五三三	五三三	内地帰還のため幾溪出発
六二	六二	一部先発隊 両軍尉中佐以下 二九一名
六五	九州博多港入港	出発 船名 飯田丸 (アキラ号 ハリバティ型)
六二〇	六二〇	船外検査の結果 独歩九〇大隊より 真性天然痘 一名 発生隔離
六六	六六	隔離解除 上陸 復員式挙行 両軍尉中佐以下 二八九名解散す
六二	六二	経理部 陸軍軍曹 附 染 痘 美 肺浸潤に因り博多国立病院に入院、同軍曹に關係する復員事務処理は完了した リ
二日市町中口戸頭整理部に戸頭整理に任す	村山大尉は先発隊戸頭整理の為	

(55)

0068

部隊行動の概要

独立混成第十七旅团司令部

陸軍主計大尉 紅 藤 監門

年月日

概

要

昭二一、六、二十四

主力と分離後の行動

上海港出帆

鹿児島港上陸

帰還人員
二八名

年月日	概	要
昭二一、六、二十四 七一	主力と分離後の行動 上海港出帆 鹿児島港上陸 帰還人員 二八名	

(56)

0069

独立歩兵第八十七大隊 略歴

年月日	概要
昭二四、三、三六	軍令陸甲第十四号に依り独立歩兵第八十七大隊編成下令
一四、三、二六	編成業務着手
一四、三、一五	中華民國江蘇省上席に於て編成完結
一四、三、一五	大隊長陳軍少佐、連隊長劍以下將校三七名、准下士官八八名、兵士九三名 中華民國江蘇省南鎮に移駐
自一四、三、一至一五、二、二九	上海附近 第一期治安調正
自一五、三、一至一五、六、三〇	上海附近 第二期治安調正
自一五、七、一至一五、二、三〇	上海附近 第三期治安調正
昭五、七、二七	將校二名補充
一五、九、三〇	將校二名交代帰還
一五、二、八	將校五名 下士官兵一七〇名補充
自一五、一〇、三至一五、一〇、三〇	江南旅駆參加（死殲兵一名）

(57)

0070

年 月 日	概 要
昭一五、三、三六 自一五、三、一 至一六、三、三一 自一六、二、二一 至一三、五 三、三〇 三、三一 四、五 八、三五 八、三一 自一六、九、一 自一六、一〇、三〇 自一六、三、三〇 至一五、三、一五 自一七、一、一一 至一七、四、三〇 第一期上海附近警備	准下士官一六名補充 昭和十六年度 上海附近第一期治安講正 蘇北作戰參加（死歿兵一兵） 將校三名交代帰還 現役兵二八六名入隊 江蘇省上海金家宅に移駐 昭和十六年度 上海附近第二期治安講正 將校四名補充 上海附近第三期治安講正 上海租界巡邏作戰參加

一七、三、九	准下士官七名補充			
一七、三、八	現役兵二六七名入隊	大隊長代理	陸軍中佐	門脇 殊之助
一七、三、七	浙義兵戰參加へ死没兵一名	准下士官三六名兵二〇〇名補充		
一七、三、六	浙江省義民附近の警備			
一七、三、五				
一七、三、四				
一七、三、三				
一七、三、二				
一七、三、一				
一七、二、九	移駐のため義民出發	大隊長陸軍中佐	松田通國	
一七、二、八	將校三名准下士官三三名兵三八二名交代帰還	將校三名補充		
一七、二、七	湖南省新牆河進攻依戰參加へ死沒下士官一名兵三名			
一七、二、六	湖南省臨湘縣林場着、同地附近警備			
一七、二、五	將校八名、兵七一名補充			
一七、二、四				
一七、二、三				
一七、二、二				
一七、二、一				
一八、一、八	鬼役兵二三二名入隊			
一八、一、七				
一八、一、六				
一八、一、五				
一八、一、四				
一八、一、三				
一八、一、二				
一八、一、一				
至	自	自	至	

(59)

0072

年	月	日	總	要
自	一八、二、一			
至	三、三			
八、三、五	大隊長代理 陸軍中佐 金 潤 旭			
三、六	將校八名、准下士官一八名、兵ニ六〇名交代帰還			
四、三四	江南殲滅依戦參加のため桃林出発			
四、三六	江北依戦參加			
六、三〇	江南殲滅依戦參加（死没將校一名、下士官三名、兵三〇名）			
八、五、一九	大隊長 陸軍中佐 浅沼 吉太郎			
六、七	大隊長 陸軍中佐 取元 宗次郎			
七、一	湖南省臨湘縣長安に集結			
七、三	湘南省咸寧縣橫溝橋に移駐同地附近の警備			
一〇、五	將校五名補充			
一二、八	兵八〇名補充			
一二、三五	兵一三名補充			
一、一九	爆破兵一〇二名入隊			
一、三一	昭和十六年軍令陸甲第百十五号に依る編成完結（横溝橋）			
四、一九	大隊長 陸軍中佐 取元 宗次郎以下將校三〇名、准下士官九名兵八三〇名 湖南省臨湘縣長安に移駐			

(60)

0073

五、三	湖南省岳陽縣新聞塘に移駐
五、二	兵二〇三名補
六、六	湖南省臨湘縣桃林に移駐
六、七	移駐のため桃林出発
六、八	湖南省平江縣紅花尖附近の戰斗へ死没者將校三名准下士官二名兵一四名)
六、九	湖南省平江縣平沼に移駐同地附近の營浦
五、三〇	大隊長 陸軍少佐 噴 本 喬久夫
三、三一	軍令陸甲第一八號に依る編成改正
三、三二	大陸長 陸軍少佐 噴 本 喬久夫 以下 將校ニヒ名准下士官一二〇名兵七四六名 計八九三名
八、一四	厚職詔書発布
八、一五	復員下令
八、一六	停戰協定締結
九、二	湖南省岳陽縣新聞塘に集中
一、一	湖南省臨湘縣路口鋪に集中
一、三	兵一六名補充
一、七	復員のため路鋪出発

(61)

0074

年 月 日	概 要
昭二二、四、三 五、二一	湖北省東口縣楊子江集中 江蘇省上海に集中
六、二	江蘇省上海港（飯田桟橋）出発博多に向う (TOSHO HANDELSCHIFF UTELLIN)
六、五	福岡市博多港に入港
六、六	検診 船内傳染病発生のため三週間隔離 博多上陸復員式奉行 部隊復員帰国

(62)

0075

独立混成第十七旅團

略歴

年月日	概要
昭一九、一一、三六 自昭一四、二、三六 至一五、一四	軍令陸甲第四十號に依り編成下令へ第一師團復員に際し其の一部の兵員を以て南昌附近に於て編成上海警備第一部隊と称し上海附近に駐屯す。
一五、一五	編成及輸送業務
一四、一二、二二	部隊の任務
一三、一三、二一	上海警備第一部隊となり上海特別市浦東地区及崇明島地区に駐屯し治安維正に在す、
一三、一五	初代部隊長
一三、一三	陸軍中佐 神田直光
一三、二一	部隊創立以後の略歴
一三、二二	上海集結
一三、二三、二一	新大隊長陸軍中佐 青海川弘徳
一三、二五	昭和十五年度第一期二期三期上海治安維正
一五、二三、二一	一部を以て春季皖南依戦宣城水城江南依戦（浙江省錢塘江南岸）に参加す

年	月	日	機	要
昭一五	十	八	入す	補充營往部隊より見習士官以下二二〇名へ昭和十五年徵集廻役兵二二〇名を含む)到着編
一六、三	三	三	新部隊長 陸軍中佐 河野孝次 善莊	新部隊長 陸軍中佐 河野孝次 善莊
一三、三	八	八	第一師団より幹部要員見習士官五名到着編入す	第一師団より幹部要員見習士官五名到着編入す
一六、二	一	一	昭和十六年度上海第一期ニ期三四期治安輔正	昭和十六年度上海第一期ニ期三四期治安輔正
一三、三	二	二	一部租界進駐す	一部租界進駐す
一六、三	八	八	補充兵及応召兵將校以下 名交代帰還す	補充兵及応召兵將校以下 名交代帰還す
一七、一	八	八	第一師団より幹部要員准士官下士官三名到着編入す	第一師団より幹部要員准士官下士官三名到着編入す
三、九	八	八	補充營往部隊より昭和十六年徵集廻役兵二七〇名到着編入す	補充營往部隊より昭和十六年徵集廻役兵二七〇名到着編入す
三、八	六	五	第一師団より幹部要員下士官二名到着編入す	第一師団より幹部要員下士官二名到着編入す
至	六	五	昭和十七年度第一期ニ期上海治安輔正 一部を以て第二期大湖周辺作戦に參加	昭和十七年度第一期ニ期上海治安輔正 一部を以て第二期大湖周辺作戦に參加
六、一	五	八	一部主力を以て浙贛作戦に參加す	一部主力を以て浙贛作戦に參加す

(62)

0077

八、二	補充懋庄部隊より見習士官以下二七〇名到着編入す。
六、五	第一師団より幹部要員下士官二名到着編入す。
自昭二七、一、一	昭和十七年度第一期二期上海治安調査正一部を以て
六、五	第二期大湖周辺作戦に参加
五、八	一部隊は主力を以て浙赣作戦に参加す。
六、六	一部主力に遅及浙贛作戦に参加
二、三	補充懋庄部隊より見習士官以下二七〇名到着編入す。
二、八	依戦より帰還上海集結
二、一	補充兵及応召者下士官以下一二〇名交代帰還す。
一、八	一部隊は配備変更の為湖南省臨湘縣長安附近に移駐與漢濱營備に任す
一、八、一	新部隊長 陸軍中佐 小野寺 審 著任す
一、八、一、三	補充懋庄部隊より昭和十六年徵集現役兵二四〇名到着編入
一、八、一、三、一	補充兵下士官以下五〇名交代帰還す。
四、二	部隊主力を以て江北殲滅作戦に参加
七、一	應召下士官四〇名交代帰還す。
四、三四	部隊は主力を以て江南殲滅作戦（廟池口周辺敵陣地突破戦に参加、官増攻略戦参加南嶽方面攻撃戦参加鳳凰山附近殲滅戦に参加）に参加す。
九、二	配備変更の為湖北省咸寧附近に移駐同地警備
七、二	新部隊長 陸軍中佐 宮 啓 龜次郎 着任す。
昭和十四年徵集現役兵五〇名交代帰還す。	

年	月	日	穀
一、一、三八			湘充兵及應召者八七名到着編入す
二、二、一五			補充兵應召者二〇名到着編入す
一九、一、三三			建制一ヶ中隊へ第四中隊) 将校以下二四二名、征し部隊編成要員として新編す
六、三一			幹部要員將校以下五名到着漏入す
二、一、八			昭和十八年徵集現役兵一二〇名到着編入す
四、一、六			配屬変更の為湖南省華容附近に移駐 江南左地区華容墨山鋪附近の警備に任す
五、三三			部隊主力を以てトレス号作戦に参加へ膏石碑一陽勲)
六、一八			華容縣北景港附近に移駐九都大河以東の守備に任す
六、三二			補充兵應召者一八〇名到着編入す
二〇、二、一〇			新部隊長陸軍中佐 遠 滉 多喜雄 着任す
二〇、二、一			昭和二十年軍令陸軍第十八号に依り編成下今
三、三一			編成完結
四、一四			昭和十九年徵集現役兵三六三名韓國籍軍人三十二名到着編入す
六、一五			部隊は九都大河以東管内の討伐治安宣撫に努め湖南沃土の米穀穀の集収に努力
二、一三			本土兵備要員將校以下二九名甄別のため出發
了			

(66)

0079

二、五、二七

五、二二

七、七

六

上海に到着

部隊は上海吳淞北地区第五兵站勤務に在り

内地帰還の為上海港出帆

浦東上陸

独立混成第十七旅団
独立歩兵第八十九大隊 路逕

年	月	日	概要
昭一四、二、三	一一、二	三	軍令陸甲第四〇号に依り上海に集結 編成完結
自一四、二、三	至一七、六、九	一	上海附近警備
自一七、六、九	至一九、九、三	一	浙贛作戦に参加
自一九、九、三	至一八、三、三	一	岳陽附近警備
自一九、四、六	江 南 殲 滅 作 戦 に 参 加		
自一八、七、一	生 死 不 明 着 四、易 所 湖 北 省 松 滋 縣、湖 北 省 安 鄉 縣 時 期 何 れ も 薄 穏 時 成 寧 蒲 折 附 近 警 備		
自一九、四、五	江 南 殲 滅 作 戦 終 了 後 患 者 多 発 す 大 隊 の 約 三 分 の 一 (ハミハム名) 右 才 依 戰 の 疲 労 に 依 る。		
岳 阳 附 近 警 備			

(68)

0081

至二〇九二	一一五、一元	復員の急上活港出帆
五、三	六、四	博多港上陸
一一〇、三、三一	一一〇、三、三一	復員完結
自一四、二、一四	初代大隊長	部隊長名
至一九、三、一	大佐	
自一九、三、二	森	
至三、五、三五	未治	
三〇、三、三八	二代大隊長	
	少佐	
	佐藤	
	虎次	
軍令陸甲第十八号に依り編成改正		
（ハ大隊本部強化、新に機関銃歩兵砲各一中隊及通信一少隊を増設せらる）		

(69)

0082

独立混成第十七旅團
獨立步兵第九十大隊 暫
駐

年	月	日	規	要
昭一四	二二六		昭和十四年軍令陸甲第四十號に依り独立混成第十七旅團獨立步兵第九十大隊編成	
八、二七	三、一	至	或下令	
八、二七	三、一	自	編成業務着手	
八、二七	三、一	自	編成及輸送業務	
八、二七	三、一	自	中華民國江蘇省上海に於て編成完結	
八、二七	三、一	自	大隊長 陸軍中佐 市川壽三郎 以下將校二七名 漢上官五、下士官八一 名、兵八三八名	
八、二七	三、一	自	中華民國江蘇省松江縣松江に移駐	
八、二七	三、一	自	上海附近第一明治安講正	
八、二七	三、一	自	上海附近第二明治安講正	
八、二七	三、一	自	見習士官四名補充	
八、二七	三、一	自	陸軍中尉今井好房以下二名交代補充	

(70)

0083

(91)

0084

年	月	日	概	要
自	至	自	自	
自 一七、一三	至 一三	自 三、八	自 三、五	嘉平地区討伐戦
九、三	六、三	九、三	六、三	昭和十六年度徵集現役兵ニハ八名入隊
七、四	七、四	武昌上陸	第三師團地区警備増強のため武昌出發	
七、二	七、二	七、一四	應山縣廣水普・同地附近警備	
七、三	七、三	七、三	信陽長台閣附近討伐(拂祖店附近の戰斗)	
八、三	八、三	八、三	第三師團地区警備増強の任を解かれ信陽出發武昌着	
八、六	八、六	湖南省岳陽縣小橋切後駐	岳州地区第六師團警備交代の為武昌出發	

(72)

0085

八、一、二	大隊長 陸軍大佐 野津 敏
八、一、七	第八次 滅充員見習士官以下三六名到着 陸軍准尉 漢 尾 新一郎以下二一〇名交代帰還
九、三、四	岳州長安附近警備
九、三、五	第九次補充員五三名到着 昭和十七年度徵募現役兵二八〇名入隊
一〇、三、五	独立混成第十七旅團は第十一軍の隸下に入らしめらる 巖山周辺討伐
一〇、三、六	新宿河畔進攻依弾 死没人員將校一名 兵二名
一一、三、二	大隊長代理 陸軍大尉 倍 田 正 雄
一二、三、一	江北城滅伏戰
一八、二、五	大隊長 陸軍中佐 斜 尾 芽 治
一九、四、一	岳州長安附近警備
二十、四、五	陸軍曹長 平野 豊 以下二七名交代帰還

(73)

0086

(74)

0087

自	至	自	至	自	至	常徳城滅伏戦（咸寧浦折附近警備）	
八、一	見習士官三名補充	九、四	陸軍衛生曹長 鈴木伸太以下三三名帰還	一〇、五	見習士官九名補充	一一、三	見習士官四名補充
二、七	補充員女一二〇名到着	三、一	補充將校四名到着	四、一	昭和十八年度徵集現役兵一六〇名到着	五、一五	昭和十九年軍令陸甲第 旁に基き將校以下一四七名抜除
四、一九	湖南省臨湘縣忠防に移駐	四、二四	移駐の為縮林橋出港	四、一六	「ト」号旅、鐵峯支隊育石碑附近の陽動	五、一五	「ト」号旅、鐵峯支隊育石碑附近の陽動
六、一八	鄂南地区警備（忠防地に警備）						

(75)

0088

年 月 日	概 要
昭二〇、一、三	死殮人員 將校一名 淹士官、下士官 名、兵一名 補充員兵三〇三名到着
昭二〇、一、三	湖東南地区營籍
昭二〇、一、三	湖南省岳陽縣洪燭移駐
昭二〇、一、三	大隊長 陸軍大尉 土 居 常 惠
昭二〇、一、三	昭和十九年度徵集現役兵二三七名入隊
昭二〇、一、三	移駐のため洪燭出發
昭二〇、一、三	湖南省臨湘縣桃林移駐
昭二〇、一、三	單令陸甲第十八号下令
昭二〇、一、三	編成完結
昭二〇、一、三	大隊長 陸軍大尉 土 居 常 惠 以下將校四〇名、淹士官二一名 下士官一二六名 兵二四〇名
昭二〇、一、三	本土決要員として將校以下三十名取出
昭二〇、一、三	復員下令
昭二〇、一、三	停戰協定締結
九、二、八	停戰善後処理のため桃林出發
九、二、八	停戰詔書發布
九、二、八	停戰協定締結

(76)

0089

		自至
九、九	湖北省監利縣監利着	
八、六	復員のため監利出港	
七、三	湖南省臨湘縣道人硯（日本官兵雲溪集中池区）着	
六、三	第一次航進（道人磯—岳州—武昌—揚子）	
五、二	第二次航進（揚子—鄭州—開封—徐州—南京—上海）着	
四、三	江蘇省上海に集中	
三、二	江蘇省上海港（飯田核査）博多に向う	
二、一	福岡市博多港入港	
一、一	検診船内傳染病発生のため二週間隔離	
六、六	博多上陸復員式挙行部隊復員帰國	
六、三〇	復員者左の如し（内地帰還人員）	
五、二〇	將校 一七名 士官、下士官 百十五名	
四、二〇	兵 六八七名 計 八一八名	

(??)

0090

第 六 方 面 軍

略 歷

獨立混成第十七旅團
獨立步兵第九一大隊

年 月 日

概

要

四一四、三、五

江西省南昌縣南昌に於て第百壹師団より抽出人員に依り獨立混成第十七旅團（長谷川部隊と假称）編成部隊は獨立步兵第九一大隊を編成される

大隊長 座軍中佐

中山貴一 将校

下士官

名

一四、三、

大隊は中華民國江西省南昌縣南昌を集結へ上海へ發出後先ず行軍に依り九江駿永修撲昌車站に到り列車輸送に依り九江に前進更に南京に到り敗進諸準備を整え次ぎ海南輸送に依り中華民國江蘇省上海北駅に下車行軍に依り上駿中心区兵舍に到る

爾後部隊は上海營歸第五部隊と称し一部を以て中心区附近肅正に在ると只に次期征戰諸準備を整うると共に教育訓練に從事す。

部隊は錢塘江渡河作戦參加の為上海北駅より列車輸送に依り杭州に前進一部を以て杭州市外郭營歸に在り次で田村部隊の指揮下に入り錢塘江渡河作戦（當陽の戰斗）及誘導戦に參加

(78)

0091

二五、三

二月末日上海に帰還

崇明島掃蕩戦に参加の為中心区吳淞出港吳淞より船舶輸送に依り崇明島に上陸附近一帯の徹底掃蕩を実施す。

二六、二
大隊は太倉崑山附近警備の新任務を命ぜられ本日自動貨車輸送に依り江蘇省崑山縣崑山に到り大隊本部を崑山に位置し崑山太倉附近の治安肅正、掃蕩討伐に參加すると共に中日合意の眞精神に努め治安維持に努む

爾來昭和十七年六月迄崑山太倉附近の警備に在じ軍紀肅正と治安維行に努め中國民生の向上に努力す

其の間昭和十六年十二月八日大東亜戦開始するや緊迫せる状況下愈々中日合衆の要を曉き警備の策企を期す。

二七、六、二
大隊は旅団命令に基き中國新政権の意義を民衆に徹せしむると共に共産匪の地下活動の徹底的に掃蕩する目的を以て第一次肩郷工作に參加す

二七、七、七
浙贛依戦參加の為江蘇省上海市江湾西浜舎に集結せる部隊は吳淞港より乗船湖北省漢口に前述第十一軍司令官の指揮に入ら

漢口に集結後浙贛依戦中信陽附近の討伐戦に参加す

二八、四、二
大隊長 陸軍大佐 加村 義政

二九、三、四
江南殲滅作戦參加の為忠防出港

二九、三、二
中華民国湖北省蒲圻に集結爾後附近の警備に任ずると共に興漢線鉄道警備に任

(79)

0092

年	月	日	概要
昭二九、四、一八			中華民國湖北省監利縣監利に移駐
六			中華民國湖南省臨湘縣桃林に移駐
七			中華民國南省臨湘縣長安廟に移駐
二〇、三、三			大隊長 陸軍少佐 武藤正美
三、三三			昭和三十年軍令陸甲第十八號に依り編成改正完結
八、一五			停戦詔書奉行
八、一八			復員下令
九、二			停戦協定締結
九、二五			中華民國湖南省臨湘吳雲溪集結還待機
三、四三三			帰還の為湖南省臨湘縣雲溪出發
六、一八			上海港出帆
六、一五			博多港上陸 同日復員式挙行(部隊主力)
六、三三			部隊の一部(第一中隊一〇九名)佐世保上陸 同日復員式挙行
内地帰還人員		八三〇名	
入院患者		一四八名	
死没者		一五一名	

(80)

0093

獨立團成第十七旅團砲兵隊 路匪

陸軍中佐
石川清二郎

年 月 日	機 要
昭二四、一二、 至 一〇、一	編成完結の状況
一〇、一 九、三〇 自二七、五、二二 一、一	軍令陸軍第 萬に依り独立混成第十七旅團砲兵隊編成下令 編成管理官第百一師團長陸軍中將齋藤弥平太 砲兵隊編成監督官野炮兵第一聯隊第三大隊長陸軍少佐竹井總次郎 支那江西省南昌に於て編成業務に着手 上海に於て編成を完結す
一〇、一 九、三〇 自二七、五、二二 一、一	初代砲兵隊長 陸軍少佐 竹井總次郎
一〇、一 九、三〇 自二七、五、二二 一、一	行動の概要及其の日時 上海に於て編成完結後同地附近の警備 浙贛依戦參加
一〇、一 九、三〇 自二七、五、二二 一、一	支那岳陽岳州に進駐し同地附近の警備

(81)

0094

年 月 日	要
自八、四、一 至六、三、〇	江節城滅依戦參加
七、五	支那咸寧縣馬橋に進駐し咸寧時折兩直の警備 警備周常想依戦參加（直接戦闘に参加せず）
三、七	馬橋附近の戦闘
九、四、六	支那臨湘縣長安に進駐し鄂南地区警備 警備中一部「ト」号依戦參加
五、三	長安に於て対空戦闘
五、二	臨湘縣文家鋪附近の戦闘
七、一	支那岳陽縣吳家に進駐し湘東地区警備 岳陽縣九龍冲に於て対空戦闘
八、三	
自二〇、二、〇 至二、四、一	一部襄樊依戦參加
六、二	復員下令
六、二、一三	臨湘縣雲溪に集結
六、二、一七	雲溪出發
六、二	上海出發

(82)

0095

六、二

佐世保上陸同地に於て複員式興行

(タラ)

0096

獨立混成第十七旅團工兵隊略歷

年月日	部隊長氏名	棟
昭一四、一二、五	陸軍中尉 佐々木 深四郎	着在
一五、三、二〇	陸軍少佐 佐々木 哲	着在
一六、三、一〇	陸軍中尉 佐々木 三	着在
一九、三、一	陸軍少佐 佐々木 貴勝	男 着在
一九、八、一	陸軍少佐 佐々木 浩	男 着在
部隊完結の状況		
本 部	第一小隊 第三小隊 第三小隊	要
隊長(尉官)一 隊付中少尉一 主計中少尉一 軍医中少尉一 准士官二	分隊長(軍伍)三 分隊長(軍伍)三 分隊長(軍伍)三 兵 四二 兵 四三	着在

(84.)

.0097

下士官軍単位	五
技術下士官	二
主計下士官	一
通信下士官	一
衛生下士官	一
兵	三〇
計	四〇
合計	一七八名（本部一、小隊三（三ヶ分隊編成））
昭一四、一二、一五	上海に於て編成完結
自一四、一二、一五 至一六、一二、三一	上海附近治安肅正
自一六、一三、三四 至一三、三五	上海租界進駐に參加
自一七、一、一 至一九	上海附近警備

(85)

0098

年	月	日	概
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	浙贛作戦に参加		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	湖州及長安附近警備		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	江北殲滅作戦に参加		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	江南殲滅作戦に参加		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	常熟作戦に参加		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	咸寧浦圻附近警備		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	依戦參加の義冷水舗及湖州に移動 トマ塔旅戦に参加		
自一七八年六月二日至一八九九年六月三日	新嘉附近警備		

(86)

0099

昭三〇. 八、一四	停戦詔書發布
八、一六	復員下令
九、二	停戦協定締結
自三〇. 元、一二	湘北省臨湘蘇道八機に在りて復員業務
至三〇. 四、三〇	内地帰還の急道入機出港
四、三一	上海港出帆
五、元	鹿児島に上陸
六、四	

(87)

0100

独立混成第十七旅団通信隊 路歴

陸軍大尉 奥村和磨

年月日

昭二四、二二、三六

一二、一五

軍令陸甲第四十号に依り独立混成第十七旅団通信隊編成下令
上海に於て編成差遣
通信隊長 陸軍少佐 坂本嘉四郎 以下將校七名、下士官二十三名、
兵一四五名

上海附近治安肅正並警備戦死（死後）ナシ

補充人員下士官六名 兵二十名

交代歸還人員、下士官十三名、兵十四名

通信隊長 陸軍大尉 伊藤重郎

補充人員 將校二名（留守歩兵第三聯隊）

補充人員 下士官一名、兵三一名（留守歩兵第一聯隊）

啓東旅戰に參加（戦死、死没）者なし

内地還送人員 將校一名（職病）

初年兵入隊、人員、五四名

補充人員、下士官五名（近衛師團通信隊増充隊）

交代帰還人員、下士官八名、兵四十名

九、三〇	補充人員・將校三名へ近衛歩兵第四聯隊補充隊
二、三五	交代帰還人員・將校三名
一、一五	大東亜戦・上海租界進駐
一、一七	上海附近警備戦死（死没）者なし
三、一七	太湖周辺依戦戦死（死没）者なし
四、一〇	初年兵入隊・人員五八名
五、九	駆出人員・將校一名・下士官二名・兵十名（第六〇師団編成要員）
六、七	浙赣作戦に参加・戦病死・兵二名
六、三	駆出のため上海江湾鎮に集結
七、二	武昌駆進
八、七	廣水・信陽・長治閔に駆進
九、六	湖南省岳陽県岳州駐屯
一、一六	補充人員・將校二名
一、一六	長安岳州附近警備 戦死（死没）者なし
一、一六	交代帰還人員 矢一四名
二、三〇	補充人員・矢六三名へ近衛師団通信隊補充隊
三、三〇	新嘉進攻作戦に参加・戦死（死没）者なし
三、一五	交代帰還人員・下士官七名・兵二六名
初年兵・入隊人員三四名	

(87)

0102

年	月	日	概要
二、七			
四、六			江南殲滅旅戰に參加、戦死兵一名、戦病死兵一名
五、二			補充人員、下士官七名（近衛步兵第七聯隊補充隊）
七、一			湖北省咸寧県咸寧、移駐
九、二			咸寧蘆竹附近警備 戰病死兵三名
九、三			交代帰還人員、下士官七名、兵十三名
二、五			転入人員、将校一名（第四〇師團）
一九、一、三〇			転出人員 將校一名、下士官五名、兵三〇名（独立歩兵第七旅團通信隊編成要員）
三、二			転入人員 將校一名（第三九師團）
三、八			初年兵入隊人員二十八名
四、一			湖南省岳陽県岳州移駐
四、七			鄂南地区警備戦死兵四名（空襲に依る）、戦病死兵一〇名、自殺兵三名
四、九			軍令陸甲第十八号に依る転出人員將校四名、下士官五名、兵四七名 通信隊長、陸軍中尉 舟 村 和 磐
四、九			転入人員 兵七名（第三七師團退院者）
四、九			初年兵入隊人員三六名
四、九			転入人員、將校一名（独立混成第一七旅團司令部）

(70)

0103

六、八	八、九	九、五	六、八
武裝解除、於岳州 序戰詔書發布	湖南省臨湘縣雲溪鎮に集結	湖南省臨湘縣雲溪鎮に集結	叛逃のため岳州集結
武漢地區（楊子）集結	武漢地區（楊子）集結	上海江鴻鎮到着	派出人員、下士官一名、兵二名（獨立混成第一七旅團司令部）
内地漏還のため上海港出帆	内地漏還のため上海港出帆	佐世保浦頭上陸	佐世保浦頭上陸
日針尾海兵团厚生省引揚援護局届金着	日針尾海兵团厚生省引揚援護局届金着	除隊召集解除者二名（三日市）	除隊召集解除者二名（三日市）

(91)

0104

第六方面軍司令部
独立混成第八三旅団

年月日	概要
昭和二年三月九日	動第40号臨時動員下令
三、一〇	中部第二二部隊に於て第五野戰補充隊の編成業務に着手す
三、一一	中部第三二部隊に於て編成完結す
三、一二	旅團長　座軍少將　田　錦　副團長　三　以下
将校	名　下士官　名　兵　名　計　名
博多港出帆	
七、三四	華北方面軍の戦闘序列に入る
四、七八	湘口通過の時を以て第一一師司令部の指揮下に入る
四、八	湖北省揚子に上陸着陸す
四、九	華北方面軍の戦闘序列を脱し中國派遣軍の戦闘序列に入り武漢防衛軍司令官の指揮下に入る
五、一	中國派遣軍の戦闘序列を脱し第三四軍の戦闘序列に入る
七、三五	補充員として第百四師団より左記の通り編入抜属す
下士官　一名　兵　二四名　計　二五名	

(後)

0105

二、一

昭和二十年軍令陸甲第十八号に依り第五野戦補充隊復帰下令
昭和二十一年軍令陸甲第十八号に依り独立混成第八三旅団編成下令

三、一〇

中華民國湖北省漢口に於て第五野戦補充隊の復帰並に独立混成第八三旅団司令部の編成完結す。

旅团长 陸軍少将 田 鳩 明 以下

将校十九名 下士官五〇名 兵二六二名 計 三三一名

旅団は引領立武漢地区の警備に任ず

第二十軍野戦自動車廠より下士官一員駆逐入す

第百三二師団編成要員として下士官一名 兵三名駆出す。

関東軍奉天病馬廠へ陸軍主計大尉後藤鉄石駆出す

第六方面軍野戦補充馬廠より陸軍獸医中尉阿形甚三郎駆逐入す

第六方面軍野戦補充馬廠へ陸軍獸医大尉大塙若夫駆出す。

停戦詔書發布せらる

停戦協定締結せらる

湖北省漢口に於て下士官三名、兵一名現地召集解除す

軍命令に依り湖北省黄陂縣黄陂に移駐す

第三回軍野戦貨物廠へ下士官一名駆出す。

九、二五

草中野戦補充馬廠へ蹄鉗術教教育者として派遣中の下士官一名復帰不能の為

(93)

0106

年 月 日	概	要
二、一 六、四	中國陸軍第六師に対し矢畢戻込一切の引続を完了す	同廠へ転出せしむ。
二、二 三、八	自動車第三八駆隊將校一名下士官二名兵ニ〇名原隊復帰不能の為転属輸入す	中國陸軍總司令部へ派遣中の下士官二名復帰不能により転出せしむ
四、八 四、九	第六方面軍司令部より勤務將校一名、下士官一名返入す	第六方面軍司令部より勤務將校一名、下士官一名返入す
四、六 五、七	内地帰還のため駐屯地黃波出發	上海乗船地司令官より乗船地司令部勤務要員の遣出しを命ぜられたるを以て親
五、八 六、一	下部隊より左の通り転属編入す。	下部隊より左の通り転属編入す。
五、九 六、一	將校十七名、下士官三四名、兵九名 計六十名	將校十七名、下士官三四名、兵九名 計六十名
五、一〇 六、一	旅團長 陸軍少將 田 嘉 開 三 上海南吳淞滬寧司令官を命ぜらる	中國派置軍總司令部より返還浮虜左の通り転属せしめらる
五、一一 六、一	將校一名、下士官一六名、兵一三七名、軍屬七名、計一九七名	將校一名、下士官一六名、兵一三七名、軍屬七名、計一九七名
五、一二 六、一	第一次帰還として陸軍大尉曰下生彌の指揮を以て左の通り東船歸還す	第一次帰還として陸軍大尉曰下生彌の指揮を以て左の通り東船歸還す
五、一三 六、一	將校九名、下士官四五名、兵二三二名 計二八七名	將校九名、下士官四五名、兵二三二名 計二八七名
五、一四 六、一	第二次帰還として(復員本部要員)陸軍大尉仁木田丸及兵一名乗船帰還す	第二次帰還として(復員本部要員)陸軍大尉仁木田丸及兵一名乗船帰還す
五、一五 六、一	第三次帰還として陸軍大尉中村善藏の指揮を以て左の通り乘船帰還す	第三次帰還として陸軍大尉中村善藏の指揮を以て左の通り乘船帰還す
五、一六 六、一	將校三名、下士官二九名、兵一ヒ〇名、軍屬七名 計二〇九名	將校三名、下士官二九名、兵一ヒ〇名、軍屬七名 計二〇九名
五、一七 六、一	旅團長陸軍少將田嘉開三上海南吳淞滬寧司令官を命ぜらる	旅團長陸軍少將田嘉開三上海南吳淞滬寧司令官を命ぜらる

六、三

第六方面軍司令部へ陸軍法務大尉岡安輝 法務曹長花田久太郎派出す

七、一

上海乗船地司令部勤務者一部復帰せしめられたるに依り第六次帰還として陸軍中尉以上貞一の指揮を以て左の通り衆船帰還す

七、一

將校二名、下士官一三名 兵八名 計三三名
上海市上船地司令部勤務者中左記人員復帰不能に依り第六方面軍司令部に転属せしめらる。

將校一名 下士官三名 兵五名 計八名

七、
上海東船場連絡所勤務中の左記人員復帰不能に依り第五次帰還として同前長大場大佐の指揮を以て乗船帰還す

將校二名 下士官三名 計四名

旅團司令部主力（第六次帰還）は旅團医大尉の指揮を以て乗船帰還す

將校九名 下士官二一名 兵一七名 計三八名

旅團司令部主力（第六次帰還）は旅團医大尉の指揮を以て乗船帰還す

ト被留す

旅團司令部残務整理を完了茲に復員完結す

年 月 日	概	要
	独立混成第八十三旅団司令部の一郎	
昭 三 一 五 二 三	主力と分離後の行動概要	
一 四 〇 〇	上海へ飯田桟橋へ出港	
五 一 五 一 六 〇 〇	山口県仙崎に達着	
五 九	山口県仙崎に上陸復員式挙行後文々各帰郷別に分離す	

0109